

海陸運送業をグルーブで手掛ける長手ホールディングス（長手HD）は18日、グループ企業D、本社・神戸市中央区、社長・榎木一秀氏）が運航する新造船のプリンス海運（本社・同区、社長・藤井直之氏）が開催し、関係者や取引先など約70人が参加し、口昭洋社長も参加し、船の見学会を神戸港で開催した。見学会にはコベルコロジスティクスの西岡昭洋社長も参加し、新造船見学会を神戸港で開催した。見学会にはコベルコロジスティクスの西岡昭洋社長も参加し、新造船見学会を神戸港で開催した。

海陸運送業 の長手HD

新造船見学会を神戸で開催

プリンス海運が運行



就航を開始した新造船「プリンセス ベル」



70人が船内を見学

始した9521 RORO船（ロノ・ロールオフ）。船主は北星プリンス海運（Starlink）の50台、乗用車の積載が可能。積重量は504t、航海能力は21ノットとなっている。追浜港（神奈川県）—神戸港—苅田港（福岡県）の内海航路に投入され、日産自動車の部品輸送も一般雑貨も輸送する。貨物倉内冷房装置や倉内監視用サーモカメラなど最

新の機器を備えており、衛星通信サービス「Starlink（スターリンク）」のWi-Fiや女性専用居住区画を設けるなど、快適な船内環境を整えている。

プリンス海運の藤井社長は「日産自動車の追浜工場（神奈川県横須賀市）は27年度末に生産終了するが、今後は日産自動車九州（福岡県苅田町）へ生産移管する。この移管に伴い、関東～九州間の部品輸送量は増加する見通しだ。陸上輸送のドライバー不足も含めて、今後、海上輸送は増加していく。将来的な増船も視野に入れて、海上輸送需要の増加に応えていきたい」と語った。